

主な医薬品とその作用

問1 かぜ（感冒）に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 「かぜ」は単一の疾患ではなく、医学的にはかぜ症候群という。
- b かぜの約8割は細菌の感染が原因であり、年間を通して決まった細菌が原因となっている。
- c かぜとよく似た症状が現れる疾患に、喘息、アレルギー性鼻炎、リウマチ熱、関節リウマチ、肺炎、肺結核、急性肝炎、尿路感染症等がある。
- d インフルエンザ（流行性感冒）とかぜは感染力の違いがあるが、同じものとして扱われている。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問2 かぜ薬の配合成分とその配合目的のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

【配合成分】	【配合目的】
a サリチルアミド	— 発熱を鎮め、痛みを和らげる
b ブロムヘキシン塩酸塩	— 痰の切れを良くする
c ノスカピン	— 鼻汁を抑える
d ブロメライン	— 気管・気管支を拡張する

1 (a , b) 2 (a , d) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問3 炎症による腫れを和らげる成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a セミアルカリプロテナーゼは、フィブリノゲンを分解する作用があり、血液凝固異常のある人では出血傾向を悪化させるおそれがある。
- b グリチルリチン酸を大量に摂取すると、偽アルドステロン症を生じるおそれがあり、1日最大服用量がグリチルリチン酸として40mg以上となる製品では長期連用を避ける必要がある。
- c トラネキサム酸は、肝機能障害があると代謝や排泄^{せつ}が遅延して、それらの副作用が現れやすくなるため、肝臓病の診断を受けている人は医師等に相談する必要がある。
- d カミツレは、甘味料として一般食品や医薬部外品にも広く用いられているため、総摂取量が継続して過剰にならないよう注意を促す必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	正	正	誤	誤

問4 かげの症状緩和に用いられる漢方処方製剤に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 葛根湯^{かつこんとう}は、重篤な副作用として肝機能障害、偽アルドステロン症を生じることが知られている。
- 2 麻黄湯^{まおうとう}は、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）は使用を避ける必要がある。
- 3 小柴胡湯^{しょうさいことう}は、まれに重篤な副作用として間質性肺炎、肝機能障害を生じることが知られている。
- 4 小青竜湯^{しょうせいりゅうとう}は、体力中等度で、ときに脇腹からみぞおちあたりにかけて苦しく、食欲不振や口の苦味があり、舌に白苔がつくものの、食欲不振、疲労感、かげの後期の諸症状に適すとされる。

問5 かぜ薬の配合成分とその副作用のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

	【配合成分】		【副作用】
a	アセトアミノフェン	—	肝機能障害
b	アスピリン	—	排尿困難
c	イブプロフェン	—	腎障害
d	コデインリン酸塩	—	無菌性髄膜炎

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問6 痛みや発熱が起こる仕組み及び解熱鎮痛薬の働きに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a プロスタグランジンは、病気や外傷があるときに活発に産生されるようになり、体の各部位で発生した痛みが脳へ伝わる際に、そのシグナルを増幅することで痛みの感覚を強めている。
- b プロスタグランジンは、脳の下部にある体温を調節する部位（温熱中枢）に作用して、体温を通常より低く維持するように調節する。
- c 解熱鎮痛成分によりプロスタグランジンの産生が抑制されると、腎血流量が減少するため、腎機能に障害がある場合、その症状を悪化させる可能性がある。
- d プロスタグランジンの作用が解熱鎮痛成分によって妨げられると、胃酸分泌が低下するとともに胃壁の血流量が増加して、胃粘膜障害を起こしやすくなる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	誤

問7 解熱鎮痛成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アスピリンは、血液を凝固しにくくさせる作用があるため、胎児や出産時の母体への影響を考慮して、出産予定日12週間以内の使用を避ける。
- b アセトアミノフェンは、主に中枢作用によって解熱・鎮痛をもたらすため、末梢における抗炎症作用は期待できない。
- c エテンザミドは、痛みが神経を伝わっていくのを抑える働きが強く、他の解熱鎮痛成分と組み合わせて配合されることが多い。
- d イソプロピルアンチピリンは、一般用医薬品では唯一のピリン系解熱鎮痛成分である。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	正	正
5	正	誤	正	誤

問8 眠気を促す薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 抗ヒスタミン成分を含有する睡眠改善薬は、一時的な睡眠障害（寝つきが悪い、眠りが浅い）の緩和に用いられる。
- b 抗ヒスタミン成分を含有する睡眠改善薬は、目が覚めたあとも、注意力の低下や寝ぼけ様症状、判断力の低下等の一時的な意識障害、めまい、倦怠感^{けん}を起こすことがあるので注意が必要である。
- c プロモバレリル尿素を含有する睡眠改善薬は、妊婦又は妊娠していると思われる女性に使用できる。
- d 抗ヒスタミン成分を含有する睡眠改善薬は、15歳未満の小児に使用できる。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	誤	誤	正
4	誤	正	正	正
5	正	誤	正	誤

問9 カフェインに関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 胃液分泌亢進作用があるので、胃酸過多の人や胃潰瘍のある人は服用を避ける。
- b 医薬品や医薬部外品、食品にも含まれているため、それらとカフェインを含む眠気防止薬を同時に摂取すると、中枢神経系や循環器系等への作用が強くなり現れるおそれがある。
- c 依存を形成する性質はないため、長期連用が勧められている。
- d 乳汁中に移行しないため、授乳中でも継続的に摂取することができる。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問10 鎮暈薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ジプロフィリンは、不安や緊張などの心理的な要因を和らげることを目的として配合される鎮静成分である。
- b ジメンヒドリナートは、延髄にある嘔吐中枢への刺激や内耳の前庭における自律神経反射を抑える作用を示す。
- c メクリジン塩酸塩は、他の抗ヒスタミン成分と比べて作用が現れるのが早く、持続時間は短い。
- d ジフェニドール塩酸塩は、排尿困難の症状がある人や緑内障の診断を受けた人では、その症状を悪化させるおそれがある。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	正	正	正	正
5	誤	誤	正	誤

問 11 小児の^{かん}疳を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ゴオウは緊張や興奮を鎮め、また、血液の循環を促す作用等を期待して用いられている。
- b 漢方処方製剤は、作用が穏やかであり、副作用がないため、生後すぐから使用できる。
- c 抑肝散^{よくかんさん}を小児の夜泣きに使用する場合、1週間位服用して症状が改善しなかったときでも、継続して服用する必要がある。
- d 小建中湯^{しょうけんちゅうとう}を乳幼児に使用する場合、体格の個人差から体重当たりのグリチルリチン酸の摂取量が多くなることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	正	誤

問 12 咳止め・痰^{たん}を出しやすくする薬(鎮咳去痰薬^{がいかいたん})及びその配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 コデインリン酸塩は、依存性がある成分であり、長期連用や大量摂取によって薬物依存につながるおそれがある。
- 2 メチルエフェドリン塩酸塩は、心臓病、高血圧、糖尿病又は甲状腺機能障害の診断を受けた人では、症状を悪化させるおそれがある。
- 3 口腔咽喉薬^{くわう}の効果を兼ねたトローチ剤には、殺菌消毒成分が配合されている場合があり、その成分は、口腔内^{くわう}や咽頭部において局所的に作用する。
- 4 マオウは、気管支拡張作用のほか、発汗抑制、尿量減少等の作用をもつ。

問 13 口腔咽喉薬、うがい薬（含嗽薬）及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 鎮咳成分や気管支拡張成分が配合されている。
- b リゾチーム塩酸塩が配合成分として使用されている場合は、鶏卵アレルギーの既往歴がある人は使用を避ける必要がある。
- c 含嗽薬は、水で用時希釈して使用するものが多く、調製した濃度が濃いほど効果が高い。
- d ヨウ素系殺菌消毒成分が配合された含嗽薬では、レモンやお茶を摂取した直後の使用は避けることが望ましいとされている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	正	正	誤

問 14 胃の薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 制酸薬は、胃液の分泌亢進による胃酸過多や、それに伴う胸やけ、腹部の不快感、吐きけ等の症状の緩和を目的としている。
- b 消化薬は、弱った胃の働きを高めることを目的とする医薬品で、配合される成分は独特の味や香りを有し、唾液や胃液の分泌を促して胃の働きを活発にする。
- c 医薬部外品として製造販売されている整腸薬は、配合できる成分やその上限量が決められており、また、効能、効果の範囲も限定されている。
- d 一般用医薬品には、制酸、消化、整腸等、それぞれの作用を目的とする成分を組み合わせた製品がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	正	正	誤	誤

問 15 胃腸に作用する薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ウルソデオキシコール酸は、胆汁の分泌を促す作用（利胆作用）があるとされ、消化を助ける効果を期待して用いられる。
- b オウバクは、苦味による健胃作用を期待して用いられている。
- c ピレンゼピン塩酸塩は、体内で代謝されてトラネキサム酸を生じることから、血栓のある人、血栓を起こすおそれのある人は、生じた血栓が分解されにくくなることがある。
- d アルジオキサは、アルミニウムを含む成分であるため、透析を受けている人は使用を避ける必要があるが、透析を受けていない人は長期にわたって使用ができる。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問 16 以下の記述にあてはまる漢方処方製剤はどれか。

体力中等度以下で腹部筋肉が弛緩^しする傾向にあり、胃痛又は腹痛があつて、ときに胸やけや、げっぷ、食欲不振、吐きけなどを伴うものの神経性胃炎、慢性胃炎、胃腸虚弱に適するとされる。

- 1 はちみじおうがん 八味地黄丸
- 2 しゃくやくかんぞうとう 芍薬甘草湯
- 3 あんちゅうさん 安中散
- 4 ちやうとうさん 釣藤散

問 17 腸の不調及び薬が症状を抑える仕組みに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 腸内細菌の活動によって生じる物質や腸内細菌自体及びその死骸が、便通や糞便の質に影響を与える。
- b 止瀉薬には、腸管を直接刺激するものや、糞便のかさや水分量を増すものがある。
- c 瀉下薬は、腸管内の環境を整えて腸に対する悪影響を減らすことによる効果が期待され、下痢、食あたりに用いられている。
- d 腸の働きは自律神経系により制御されているため、腸以外の病気等が自律神経系を介して腸の働きに異常を生じさせる場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	正	誤	誤	正

問 18 腸の薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 防虫剤・殺鼠剤を誤って飲んだ場合、腸内容物のすみやかな体外への排除のためヒマシ油を使う。
- b センナが配合された瀉下薬は、妊婦又は妊娠していると思われる女性では使用を避ける。
- c 腸内で溶けるようにコーティングされている薬は、服用前後 1 時間以内に制酸成分を含む胃腸薬の服用や牛乳の摂取をしても胃内で溶け出すことはない。
- d マグネシウムを含む成分は、一般に消化管からの吸収は少ないとされているため、腎臓病の診断を受けた人が使用しても副作用はおこらない。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	正	誤	誤	正

問 19 胃腸鎮痛鎮痙薬^{けい}の症状を抑える仕組みに関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、3箇所の (a) 及び2箇所の (b) 内はいずれも同じ字句が入る。

消化管の運動は (a) 系の刺激により (b) し、また、(a) 系は胃液分泌の (b) にも働く。そのため、(a) の伝達物質である (c) と受容体の反応を妨げることで、その働きを抑える成分が、胃痛、腹痛、さしこみを鎮めることのほか、胃酸過多や胸やけに対する効果も期待して用いられる。

	a	b	c
1	副交感神経	亢進 ^{こうしん}	アセチルコリン
2	交感神経	亢進 ^{こうしん}	アドレナリン
3	副交感神経	抑制	コリンエステラーゼ
4	交感神経	抑制	ノルアドレナリン

問 20 浣腸薬^{かん}及びその配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 便秘の場合に排便を促すことを目的として、直腸内に適用される医薬品である。
- 注入剤を使用する場合は、薬液の放出部^{こうぶ}を肛門に差し込み、薬液だまりの部分を絞って、薬液を押し込むように注入する。
- グリセリンは血管修復作用を示すため、グリセリンが配合された浣腸薬^{かん}は、肛門^{こうもん}や直腸の粘膜に損傷があり出血している場合にしばしば使用される。
- 腹痛^{おな}が著しい場合や便秘に伴って吐きけや嘔吐^{おうと}が現れた場合には、急性腹症の可能性があり、浣腸薬^{かん}の配合成分の刺激によってその症状を悪化させるおそれがある。

問 21 駆虫薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 腸管内に生息する寄生虫の虫体、虫卵及び腸管内以外に潜伏した幼虫に駆虫作用を示す。
- b 一度に多く服用することや複数の駆虫薬を併用することは、駆虫効果が高まるので推奨されている。
- c サントニン^ニは、肝臓で代謝されるため、肝臓病の診断を受けた人は使用する前に医師や薬剤師に相談をする必要がある。
- d 駆除した虫体や腸管内に残留する駆虫成分の排出を促すために瀉下薬^{しゃ}を併用する場合、ヒマシ油の併用は避ける必要がある。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問 22 強心薬、その配合成分及び動悸^きや息切れの症状に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 強心薬には、心筋に作用して、その収縮力を高めるとされる成分が主体として配合されている。
- b センソ^そが配合された内服固形製剤は、咀嚼剤^{そしやく}となっている。
- c 何らかの疾患のため医師の治療を受けている人は、動悸^きや息切れの症状が、治療中の疾患に起因している可能性がある。
- d 一般用医薬品の副作用として動悸^きが現れることがあり、使用者の状況把握は重要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	誤

問 23 高コレステロール改善薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ポリエンホスファチジルコリンは、コレステロールと結合して、代謝されやすいコレステロールエステルを形成するとされ、肝臓におけるコレステロールの代謝を促す効果を期待して用いられる。
- b ビタミンB₂は、コレステロールの生合成抑制と排泄・異化促進作用、中性脂肪抑制作用、過酸化脂質分解作用を有すると言われている。
- c パンテチンは、コレステロールからの過酸化脂質の生成を抑えるほか、末梢血管における血行を促進する作用があるとされ、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害（手足の冷え、痺れ）の緩和等を目的として用いられる。
- d 高コレステロール改善薬は、結果的に生活習慣病の予防につながるものであるが、ウエスト周囲径（腹囲）を減少させるなどの痩身効果を目的とする医薬品ではない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	正	誤	誤

問 24 貧血症状及び貧血用薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 不足した鉄分を補充することを目的として、鉄分が配合されているため、貧血用薬（鉄製剤）を服用すると、便が黒くなることがある。
- b ビタミンCはヘモグロビン産生に必要なため配合されている。
- c 貧血用薬（鉄製剤）を服用する前後30分にタンニン酸を含む飲食物（緑茶、紅茶等）を摂取すると、タンニン酸と反応して鉄の吸収が良くなる。
- d 食生活を改善し、かつ貧血用薬（鉄製剤）の使用を2週間程度続けても症状が改善しない場合は、出血性の疾患による慢性的な血液の損失が原因の可能性はある。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , c) 5 (c , d)

問 25 循環器用薬の配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 ユビデカレノン^{ユビデカレノン}は、エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける成分である。
- 2 ユビデカレノン^{ユビデカレノン}を含んだ循環器用薬は、小児用から大人用まで製品がある。
- 3 ヘプロニカート^{ヘプロニカート}は、ビタミンEと組み合わせて用いられる場合が多い。
- 4 ルチン^{ルチン}は、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して使用されている。

問 26 痔^じ及び痔疾^じ用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品^{こう}は、肛門部又は直腸内に適用する外用薬のみとなっている。
- b 痔^じは、肛門部に過度の負担^{こう}をかけることやストレス等により生じる生活習慣病である。
- c 直腸粘膜と皮膚の境目となる歯状線より上部の、直腸粘膜にできた痔核^じを外痔核と呼ぶ。
- d 痔瘻^{じろう}は、体力低下等により抵抗力が弱まっているときに起こりやすい。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	誤

問 27 泌尿器用薬とその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 日本薬局方収載のカゴソウは、煎薬として残尿感、排尿に際して不快感のあるものに用いられる。
- b 牛車腎気丸^{ごしゃじんきがん}は、胃腸が弱く下痢しやすい人、のぼせが強く赤ら顔で体力の充実している人では、胃部不快感、腹痛等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。
- c 竜胆瀉肝湯^{りゅうたんしゃかんとう}は、体力中等度以上で、下腹部に熱感や痛みがあるものの排尿痛、残尿感、尿の濁り等に適すとされ、胃腸が弱く下痢しやすい人に対して推奨される。
- d ウワウルシは、利尿作用はなく、経口的に摂取した後、尿中に排出される分解代謝物が抗菌作用を示し、尿路の殺菌消毒効果を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 28 婦人薬に配合される生薬成分と女性に現れる特有な諸症状に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 月経痛について、年月の経過に伴って次第に増悪していくような場合や、大量の出血を伴う場合は、子宮内膜症などの病気の可能性がある。
- 2 更年期障害の不定愁訴とされる症状の背景に、原因となる病気が存在していることがある。
- 3 抗炎症作用を期待して、カンゾウが配合されている場合がある。
- 4 鎮静作用を期待して、オウレン、ソウジュツ、ビャクジュツ、ダイオウが配合されている場合がある。

問 29 内服アレルギー用薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a メキタジンは、まれに重篤な副作用として、ショック（アナフィラキシー）、肝機能障害、血小板減少を生じることがある。
- b メチルエフェドリン塩酸塩は、血管拡張作用により痒み^{かゆ}を鎮める効果を期待して用いられる。
- c クロルフェニラミンマレイン酸塩は、ヒスタミンの働きを抑える作用を示す成分として用いられる。
- d メチルエフェドリン塩酸塩は、長期間にわたって連用された場合、薬物依存につながるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	正	正

問 30 鼻に用いる薬及びその配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 ナファゾリン塩酸塩が配合された点鼻薬は、過度に使用されると逆に鼻づまりがひどくなりやすい。
- 2 クロモグリク酸ナトリウムは、アレルギー性の副鼻腔炎^{くう}には効果がない。
- 3 同種の作用を有する成分が重複する可能性があるため、鎮咳去痰薬^{がい たん}、外用痔疾用薬^じ、点眼薬の併用には注意が必要である。
- 4 スプレー式鼻炎用点鼻薬の使用前には、鼻をよくかんでおく必要がある。

問 31 眼科用薬に配合されている成分とその配合目的に関する記述のうち、正しい組み合わせはどれか。

	【配合成分】		【配合目的】
a	テトラヒドロゾリン塩酸塩	—	目の充血除去
b	リゾチーム塩酸塩	—	炎症を抑える
c	プラノプロフェン	—	眼粘膜の組織修復を促す
d	スルファメトキサゾール	—	目の疲れを改善する

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問 32 殺菌消毒成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アクリノールは、一般細菌類、真菌、結核菌、ウイルスに殺菌消毒作用を示す。
- b 消毒用エタノールは、手指・皮膚の消毒のほか、創傷面の殺菌・消毒にも用いられることがある。
- c 創傷部に殺菌消毒薬を繰り返し適用すると、殺菌消毒成分により組織修復が妨げられ、かえって治癒しにくくなることがある。
- d オキシドール（過酸化水素水）は、作用が持続的で、組織への浸透性が高い。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	誤

問 33 皮膚に用いる薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 デキサメタゾン^トは、非ステロイド性抗炎症成分である。
- 2 サリチル酸メチルは、紫外線により重篤な光線過敏症を起こすことがある。
- 3 カプサイシン^トを主薬とする貼付剤では、副作用として痛みが現れたり、貼付部位を保温器具で温めると、いわゆる低温やけどを起こすおそれがある。
- 4 水痘^ト、みずむし、たむしには、ステロイド性抗炎症成分を配合した外皮用薬が効果的である。

問 34 歯や口中の症状及び歯や口中に用いる薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 歯痛は、多くの場合、歯の齶蝕^{ウシヨク}とそれに伴う歯髄炎によって起こる。
- b 外用薬は、口腔内を清浄^{クウ}にしてから使用することが重要である。
- c 口内炎が長期間にわたって症状が長引いている場合は、口腔粘膜^{クウ}に生じた腫瘍である可能性がある。
- d 一般用医薬品の副作用として口内炎が現れることはない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	正	正	正	誤

問 35 禁煙及び禁煙補助剤に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 禁煙を達成するには、ニコチン置換療法が有効とされている。
- b 禁煙補助剤は、咀嚼^{そしゃく}剤のみである。
- c うつ病と診断されたことのある人は、禁煙時の離脱症状により、うつ症状を悪化させることがあるため、禁煙補助剤の使用を避ける必要がある。
- d 禁煙補助剤の使用中の喫煙は、問題ないとされている。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , c) 5 (c , d)

問 36 ビタミン成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 ビタミンは、微量で体内の代謝に重要な働きを担うため、生体内で十分量を産生することができる。
- 2 ビタミンB12は、赤血球の形成を助け、また、神経機能を正常に保つために重要な栄養素である。
- 3 ビタミンDの過剰症として、高カルシウム血症、異常石灰化が知られている。
- 4 ビタミンB2は、脂質の代謝に関与し、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。

問 37 一般用医薬品として使用される漢方処方製剤に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 漢方処方製剤を利用する場合、患者の「証」に合った漢方処方が選択されれば効果が期待でき、合わない漢方処方が選択されたとしても、副作用は招きにくいとされている。
- 2 漢方処方製剤の使用においても、腸間膜静脈硬化症のような重篤な副作用が起きることがある。
- 3 漢方処方を構成する生薬には、複数の処方でも共通しているものがあり、同じ生薬成分を含む漢方処方製剤を併用した方が効果が高く、副作用のおそれもない。
- 4 漢方処方製剤には、医療用医薬品と相互作用を示すものはない。

問 38 公衆衛生用薬及び感染症の防止に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 手指又は皮膚の殺菌・消毒を目的とする消毒薬は、医薬品としてのみ流通している。
- b 次亜塩素酸ナトリウムは、通常、手指又は皮膚の消毒に用いられる。
- c クレゾール石鹼液は、一般細菌、真菌、ウイルスの大部分に殺菌消毒作用を示す。
- d 殺菌・消毒は、生存する微生物の数を減らすために行われる処置である。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

問 39 衛生害虫、殺虫剤・忌避剤及びその配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 殺虫剤・忌避剤のうち、人体に対する作用が緩和な製品は、医薬部外品として製造販売されている。
- 2 保健衛生上の害を及ぼす昆虫等を衛生害虫という。
- 3 シラミの防除は、フェノトリンが配合されたシャンプーやてんか粉といった医薬品による方法のみである。
- 4 有機リン系殺虫成分の作用は、アセチルコリンを分解する酵素と不可逆的に結合してその働きを阻害することによる。

問 40 一般用検査薬及びその使用方法に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 検査に用いる検体は、採取に際して侵襲（採血や穿刺等）のないものである。
- b 尿糖・尿タンパクを同時検査する場合は、食後の尿を検体としなければならない。
- c 尿糖・尿タンパクの検査にあたり、医薬品を使用している場合は、検査結果に影響を与える成分を含むものがあるため、医師や薬剤師に相談するよう説明が必要である。
- d 妊娠検査薬は、尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）の有無を調べるものであり、妊娠成立直後の尿中hCG濃度を検出感度としている。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (a , d) 4 (b , c) 5 (c , d)

医薬品の適正使用・安全対策

問 41 医薬品の適正使用情報に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 要指導医薬品は、医師の処方箋に基づき、消費者が購入し、自己の判断で使用する。
- 2 販売時に専門家から直接情報提供を受けた購入者以外の家族等がその医薬品を使用する場合、添付文書に目を通さなくても購入者が一度説明を受けているので十分である。
- 3 一般用医薬品の添付文書には、リスク区分の記載が省略されることがある。
- 4 一般用医薬品には、添付文書又はその容器若しくは被包に、「用法、用量その他使用及び取扱い上の必要な注意」等の記載が義務づけられているが、それらの記載が明瞭なものとなるよう使用上の注意等として添付文書に記載されている場合が多い。

問 42 一般用医薬品の添付文書における「使用上の注意」に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般用検査薬は、その検査結果のみで自ら確定診断をしても良いので、判定が陽性の時は時間のある時に医師の診断を再度受ければよい旨が記載されている。
- b 「次の人は使用（服用）しないこと」の項については、使用を避けるべき人について、医師や薬剤師等の専門家に向けて記載されている。
- c 小児が使用した場合に特異的な有害作用のおそれがある成分を含有する医薬品では、通常、「次の人は使用（服用）しないこと」の項に「15歳未満の小児」、「6歳未満の小児」等として記載されている。
- d 重篤な副作用として、皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死融解症、喘息等が掲げられている医薬品では、アレルギーの既往歴がある人等は使用しないこととして記載されている。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問 43 一般用医薬品の添付文書の使用上の注意において、「相談すること」の項目中に、「次の診断を受けた人」と記載される基礎疾患等と主な成分の組み合わせのうち、正しいものはどれか。

	【診断された基礎疾患等】		【主な成分】
1	胃・十二指腸潰瘍	—	パパベリン塩酸塩
2	肝臓病	—	ヨウ化カリウム
3	緑内障	—	スコポラミン臭化水素酸塩水和物
4	甲状腺機能障害	—	リドカイン塩酸塩
5	高血圧	—	ロペラミド塩酸塩

問 44 一般用医薬品に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、2箇所の (a) 内には同じ字句が入る。

(a) は、ある程度の期間継続して使用されることにより効果が得られるとされているものが多いが、(b) をする場合には、専門家に相談する旨が記載されている（本記載がない (a) は、(c) に限られるもの）。

	a	b	c
1	漢方処方製剤	短期の使用	長期連用
2	漢方処方製剤	長期連用	短期の使用
3	眠気防止薬	短期の使用	長期連用
4	眠気防止薬	長期連用	短期の使用
5	鼻炎用点鼻薬	短期の使用	長期連用

問 45 一般用医薬品の製品表示に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 添付文書を見れば、適切な保管方法が分かるので、一般用医薬品の容器や包装に、保管に関する注意事項は記載されていない。
- b 使用期限について、配置販売される医薬品では、「配置期限」として記載されているものがある。
- c 表示された「使用期限」は、未開封状態で保管された場合に品質が保持される期限であり、いったん開封されたものについては記載されている期日まで品質が保証されない場合がある。
- d 使用期限の表示については、適切な保存条件の下で製造後 2 年を超えて性状及び品質が安定であることが確認されている医薬品において法的な表示義務はない。

1 (a , c) 2 (a , d) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問 46 医薬品の適正使用情報に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 安全性速報は A 4 サイズの青色地の印刷物で、ブルーレターとも呼ばれる。
- b 独立行政法人医薬品医療機器総合機構が行っている医薬品医療機器情報配信サービス (PMDA メディナビ) は、医薬関係者のみ利用可能である。
- c 独立行政法人医薬品医療機器総合機構ホームページには、「使用上の注意」の改訂情報が掲載されている。
- d 医薬品の製造販売業者等は、医薬品の有効性及び安全性に関する事項その他医薬品の適正な使用のために必要な情報を収集し、検討するとともに、薬局開設者等に対して、提供しよう努めなければならないが、薬局等に従事する薬剤師や登録販売者は情報提供の対象となっていない。

1 (a , b) 2 (a , c) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問 47 医薬品の適正使用情報の活用に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 添付文書や外箱表示は、それらの記載内容が改訂された場合、実際にそれが反映された製品が流通し、購入者等の目に触れるようになるまでには一定の期間を要する。
- 2 健康に対する一般の生活者の意識・関心の高まりに伴って、医薬品の有効性や安全性等に関する情報に対するニーズが多様化・高度化する傾向にある。
- 3 不十分な情報や理解に基づいて情報提供が行われた場合には、医薬品の販売等に従事する専門家としての信用・信頼が損なわれることにつながりかねないので、購入者等から質問や相談等があった場合は、自分で情報を入手してもらうように促したほうが良い。
- 4 一般の生活者が接する医薬品の有効性や安全性等に関する情報は、断片的かつ必ずしも正確でない情報として伝わっている場合も多いため、医薬品の販売等に従事する専門家は、購入者等に対して科学的な根拠に基づいた正確なアドバイスをし、セルフメディケーションを適切に支援することが期待されている。

問 48 一般用医薬品の添付文書の使用上の注意において、「してはいけないこと」の項目中に「長期連用しないこと」と記載することとされている成分として、正しいものの組み合わせはどれか。

- a インドメタシン
- b ケトプロフェン
- c リドカイン塩酸塩
- d デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物

1 (a , b) 2 (a , d) 3 (b , c) 4 (b , d) 5 (c , d)

問 49 以下の漢方処方製剤について、一般用医薬品の添付文書の使用上の注意において、「してはいけないこと」の項目中に「症状があるときのみの服用にとどめ、連用しないこと」と記載することとされているものはどれか。

- 1 だいおうかんぞうとう
大黃甘草湯
- 2 ぼうふうつうしょうさん
防風通聖散
- 3 しょうさい ことう
小柴胡湯
- 4 さい こけいし とう
柴胡桂枝湯
- 5 しやくやくかんぞうとう
芍薬甘草湯

問 50 以下の成分・薬効群のうち、一般用医薬品の添付文書の使用上の注意において、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に「授乳中の人には服用しないか、服用する場合は授乳を避けること」と記載することとされているものとして正しいものはどれか。

- 1 しょうさい ことう
小柴胡湯が配合されたかぜ薬
- 2 プロモバレリル尿素が配合された解熱鎮痛薬
- 3 アミノフィリン水和物が配合された鎮咳去痰薬 がい たん
- 4 水酸化アルミニウムゲル等のアルミニウムを含む成分が配合された胃腸鎮痛鎮痙薬 けい

問 51 以下の医薬品の成分のうち、メトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため、一般用医薬品の添付文書の使用上の注意において、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に「6歳未満の小児」と記載することとされているものとして正しいものはどれか。

- 1 アスピリン
- 2 ロペラミド
- 3 サリチル酸ナトリウム
- 4 アミノ安息香酸エチル

問 52 次の表は、ある一般用医薬品の制酸薬に含まれている成分の一覧である。この制酸薬の添付文書の「相談すること」の項において、「次の診断を受けた人」の項目欄に記載されている事項として、正しいものはどれか。

3包中
スクラルファート水和物 1,500 mg
ケイ酸アルミン酸マグネシウム 1,125 mg
ロートエキス 30 mg
アズレンスルホン酸ナトリウム 6 mg
L-グルタミン 400 mg
合成ヒドロタルサイト 270 mg

- 1 甲状腺疾患
- 2 胃潰瘍
- 3 てんかん
- 4 腎臓病
- 5 貧血

問 53 一般用医薬品の添付文書の使用上の注意において、「相談すること」の項目中に「甲状腺機能障害又は甲状腺機能亢進症の診断を受けた人」を記載することとされている医薬品の成分とその理由の組み合わせについて、正しいものはどれか。

	成分	理由
1	メチルエフェドリン塩酸塩	甲状腺ホルモンの吸収を阻害するおそれがあるため。
2	ジプロフィリン	副交感神経系の興奮作用により、症状を悪化させるおそれがあるため。
3	フェニレフリン塩酸塩	交感神経系の興奮作用により、症状を悪化させるおそれがあるため。
4	沈降炭酸カルシウム	中枢神経系の興奮作用により、症状を悪化させるおそれがあるため。

問 54 次の表は、ある一般用医薬品のかぜ薬に含まれている成分の一覧である。このかぜ薬に関する記述について、正しいものはどれか。

6錠中
イブプロフェン 450 mg
プソイドエフェドリン塩酸塩 135 mg
L-カルボシステイン 750 mg
d-クロルフェニラミンマレイン酸塩 3.5 mg
ジヒドロコデインリン酸塩 24 mg
無水カフェイン 75 mg

- 1 5歳未満の小児も飲むことができる。
- 2 このかぜ薬の成分には、乱用に気を付ける成分は含まれていない。
- 3 コーヒーやお茶等のカフェインを含有する飲料と同時に飲んでも問題はない。
- 4 服用後、乗物又は機械類の運転操作をしても問題はない。
- 5 添付文書の使用上の注意において、「相談すること」の項目中に「肝臓病の診断を受けた人」の記載がある。

問 55 安全性情報に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品の製造業者は、医薬品の有効性及び安全性に関する事項その他医薬品の適正な使用のために必要な情報を収集し、検討するとともに、一般の購入者に提供するよう努めなければならないこととされている。
- 2 緊急安全性情報はイエローレターと呼ばれ、医薬品、医療機器又は再生医療等製品について緊急かつ重大な注意喚起や使用制限に係る対策が必要な状況にある場合に作成される。
- 3 安全性速報は、医薬品、医療機器又は再生医療等製品について、一般的な使用上の注意の改訂情報よりも迅速な注意喚起や適正使用のための対応の注意喚起が必要な状況にある場合に作成される。
- 4 医薬品・医療機器等安全性情報は、医学・薬学関係の専門誌に転載されることもある。

問 56 企業からの副作用報告に関する以下の表について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

○ 副作用症例報告		報告期限	
		重篤性	
		国内事例	
医薬品によるものと疑われる副作用症例の発生	使用上の注意から予測できるもの	重篤(死亡を除く):新有効成分含有医薬品として承認後 (a)	15日以内
		市販直後調査などによって得られたもの	(b)
	発生傾向が使用上の注意等から予測することが出来ないもの	重篤(死亡を含む)	(c)

	a	b	c
1	2年以内	15日以内	15日以内
2	2年以内	7日以内	30日以内
3	2年以内	15日以内	30日以内
4	3年以内	7日以内	15日以内
5	3年以内	15日以内	15日以内

問 57 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（昭和35年法律第145号）第68条の10第2項の規定に基づく医薬品の副作用等の報告に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 医薬品との因果関係が明確でない場合は、報告の対象とならない。
- 2 安全対策上必要があると認めるときは、医薬品の過量使用や誤用等によるものと思われる健康被害についても報告がなされる必要がある。
- 3 複数の専門家が医薬品の販売等に携わっている場合は、当該薬局又は医薬品の販売業において販売等された医薬品の副作用等によると疑われる健康被害の情報に直接接した専門家すべてから報告書が提出される必要がある。
- 4 保健衛生上の危害の発生又は拡大防止の観点から、報告の必要性を認めた場合においては、15日以内に、郵送で独立行政法人医薬品医療機器総合機構に報告書を送付する必要がある。

問 58 以下の記述は、医薬品副作用被害救済制度に基づく救済給付に関するものである。該当する給付費として正しいものはどれか。

医薬品の副作用による疾病の治療（入院治療を必要とする程度）に伴う医療費以外の費用の負担に着目して給付されるものである。請求に係る医療が行われた日の属する月の翌月の初日から5年以内に請求がなされる必要がある。

- 1 障害年金
- 2 遺族年金
- 3 療養費
- 4 傷病手当
- 5 医療手当

問 59 塩酸フェニルプロパノールアミン（P P A）含有医薬品に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 2000年5月米国において、女性が糖質吸収抑制剤（我が国での鼻炎用内服薬等における配合量よりも高用量）として使用した場合に、出血性脳卒中の発生リスクとの関連性が高いとの報告がなされた。
- b 米国食品医薬品庁（FDA）から、米国内におけるP P A含有医薬品の自主的な販売中止が要請された。
- c 日本では、2003年に「塩酸フェニルプロパノールアミンを含有する医薬品による心臓病に係る安全対策について」という医薬品・医療機器等安全性情報が独立行政法人医薬品医療機器総合機構より出された。
- d 厚生労働省から代替成分としてプソイドエフェドリン塩酸塩（P S E）等への速やかな切替えの指示がなされた。

1（a, b） 2（a, d） 3（b, c） 4（b, d） 5（c, d）

問 60 医薬品の適正使用のための啓発活動に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 登録販売者においては、薬剤師とともに一般用医薬品の販売等に従事する医薬関係者（専門家）として、適切なセルフメディケーションの普及定着、医薬品の適正使用の推進のための活動に積極的に参加、協力することが期待される。
- 2 毎年10月17日～23日の1週間を「薬と健康の週間」として、世界保健機関（WHO）等による広報活動やイベント等が実施されている。
- 3 「6・26国際麻薬乱用撲滅デー」を広く普及し、薬物乱用防止を一層推進するため、毎年6月20日～7月19日までの1ヶ月間、国、自治体、関係団体等により、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が実施されている。
- 4 「薬と健康の週間」の目的は、医薬品の持つ特質及びその使用・取扱い等について正しい知識を広く生活者に浸透させることにより、保健衛生の向上に貢献することである。